畧譜 風

森川

二百十一冊ノ内

内閣文庫
和書 類
三六〇八八 號
二二 冊
五六函 一一 架
七九一才

398

内閣文庫
番號 和 36088
冊數 211(197)
函號 156 17

表中

国立公文書館
National Archives of Japan

源姓
森川
高弐千弐百石弐斗三升
家紋 九ノ内蔭菱
平ニ四角結
御定組十四代 [illegible]郎
記録御用所
一 此者 [illegible]
[illegible]
男
一 [illegible]
[illegible]
孫 [illegible] 金太郎
[illegible]
[illegible]
[illegible]
398

秘閣図書之章
日本政府図書

源姓　高貳千貳百石貳斗三升

森川　家紋　九[illegible]
　　　　　　平[illegible]

佐々木太郎定綱十四代　森川[illegible]郎

氏兼長男

森川金右衛門

氏俊

私叔父森川[illegible]氏次[illegible]家[illegible]

[illegible]

[illegible]

記録御用所
内閣
398

東照宮九代の御先祖とおなし一類にて
と御当家乃御昵懇にて相續の御家督
世々の御幕下へ属しその命ありて奥州と
称せし所永禄八年十月十一日甲子
十一月山城国御陣にて勤功ありの元亀
元年姉川の合戦乃御供の三方ヶ原の合戦
乃御供陣中にて同所にて戦ひ男別紫荊旧へ
御こし御預部田義として由ありてまゐり
捨てを合ふの長篠合戦の御供にて

天正と相成とえしの天正七年卯年
別伊良に退き乃御供の人かに御供
陣中へ退き御供此所にて合戦ありて
しかしてより先の小牧の役合戦にて
尾州清洲にて九月と申すの小田原の陣奥
別州にて供奉の天正二十年辰年十二月
朝日二千石を賜ひ其の後に御蔵
六人百石を給ふ民信乃子勿たし給ふ
の長久三戌年七月廿日死去年四十歳
家督子の三代相続

御使番伊丹播磨守ニ而定之男

森川庄右衛門宗俊

此家孫同紀之段の代より知行五百石

三代目ニ而家断絶

氏信　森川今右衛門　庄九郎

文禄元申年初而御目見時十三歳ニ而七月

廿日家督の関東乃給与

台徳院殿ニ仕ふ　同七寅年正月廿八日

東照宮より命によりて其所の地を相続

ある時其七千石に将軍家より御家門

乃附使番龍陸の大坂夏陣供奉の

元和元年に

大猷院殿ニ奉仕（御上洛供奉）の寛永三寅年九月

丸奉行乃附陸奥由緒乃領地其の関十二年

年より二千石加増し万人を預けらる

の正保二酉年十月廿八日死六十七歳

同所に葬る

勤仕申而武家方ニ而相勤

氏之　森川庄九郎

慶長十五庚戌年
台徳院殿へ初而元和九亥年御上洛の時
父ニ同しく従奉○二正保二酉年十月（○寛永二十年　大猷院殿奉仕）
廿八日家督○同四丁亥年（二月廿六日御書院番被仰付）十二月御番を勤
つとめ候○明暦三酉年かり十八日死去
十六歳同年まて相勤

氏紀　森川金右衛門　茅ヶ崎　御名乗

正保四丁亥年
大猷院殿へ拝謁の明暦二丙申年十二月
廿五日右継目御礼被仰付十年御目見へ
紀の家督二十三丁亥年七月十一日御書院番の
寄合三卯年四月日光供奉の同九
酉年八月奥御仕置ニ而同年
某ハ御目付の近寛文三卯年（二月廿六日御役御免被仰付）五月十日

寛永十六年同人に甲賀人頭申付らる○同十八年
十一月九日出陰事により同しく新右の元和元
戌年四月廿一日加役あり右の内寛文三
寅年十二月十六日死す年七十八同しく
下谷葬る

民親　森川平助

慶安三寅年十二月九日家督を継
○元禄二巳年五月十四日死す年七十三歳

子家絶

民房　森川平左衛門　右近　庄九郎

寛文二年同人の元和二丙辰年
九月廿五日御書院番の寛文五巳年
七月十二日家督相続父か遺跡民房へ八百石
分知○元禄三年御書院番の同
年病死○同十四年御書院番の
同七戊年駿府在番中に付久能山御宮

御役御免被仰付　○同十一亥年十一月本所
火事場見廻被仰付　○宝永元申年六月十
三日死　四十九歳　同寺ニ葬ル

氏長

森川今右衛門　右近　大助

宝永元申年八月廿九日家督　有高千石
式部少輔殿組　二百俵加増　○同三戌年七月廿日
御小性組　○享保十一午年三月小金原御
鹿狩御供　○同年十一月廿二日御書院番頭迄

同年十二月布衣　○享保十九寅年十一月
廿九日御書院番一組御減少ニ付寄合ニ
被仰付　○延享四卯年二月十六日致仕
○宝暦十辰年二月廿日死　七十一歳
同寺ニ葬ル

氏芳

森川庄九郎　右近

元文三午年七月廿三日初見　○延享四卯年
二月十六日家督　○寛延三午年十月十一日

死二十六歳同所ニ葬ル

氏寿

森川金右衛門 嫡子 太助

寛延三年午八月三日家督跡目百石知行

安永年五月十九日御小性組

高二千五百石部屋

源姓

高三百石

紋 丸ニ釘抜 角四ツ目結

森川

森川金右衛門氏房次男

森川平枝 金之助

氏派

宝永元申年八月九日家督二百石の高 小姓組

保十三申年二四月十日死四十九歳武州宗

悟寺ニ葬

氏英
実ハ森川金右衛門氏時三男　森川大内蔵　金右衛門　太郎
享保十三申年八月廿八日名代土屋左京亮家
相続○延享三寅年六月十五日初見○宝
暦五亥年八月十八日大番○安永八亥年
十月十二日死　年九歳　京ノ善通寺ニ葬ル

義比
幼名鬼兄　森川金吾　金之丞　大内蔵
宝暦十一巳年八月朔日初見○安永八亥年
十二月廿六日家督○同年十二月廿二日初
見○天明元丑年四月廿八日大御番○寛
政五巳年八月十八日死　年四十九歳　宗福寺
ニ葬ル

長春
実ハ森川金右衛門氏安二男
森川次郎之丞　米次郎　金之丞
寛政二戌年十二月廿四日舞年十三歳ノ同
三亥年八月朔日初見○寛政五丑年

教諭○同九巳年五月廿六日大御番○
寛政十未年十二月八日病免

高三百石

源姓 森川

高五百石
家紋 丸ノ内瓶子 角ノ内[illegible]

佐々木太郎定綱十四代堀端与四郎後
胤森川金右衛門氏知次男

光房

森川頼母 今次郎 伊織 隠居 壹岐

貞享四卯年七月十二日家知五百石○元
文五申年閏七月廿五日致仕○宝暦六
子年四月九日死七十二歳 宗梧[illegible]

葬つゝ

氏英（ヒロ）　元文森川今大夫氏孝二子　森川金右衛門　承一多　市九郎

元文五申年閏七月廿八日十五才ニテ家督寛保元酉年十二月廿日一ツ橋御屋形勤（同年十二月十八日初見○）仕ル○延享二丑年九月十二日西丸小姓組○寛延四未年七月十二日同小納戸○宝暦二申年七月廿四日御書院番○明和二戌年十二月廿八日病免○寛政二寅年五月廿二日六十歳ニテ死同寺ニ葬

氏栄（ヒサ）　森川左九郎　由之郎

天明二寅年八月七日家督○寛政五丑年五月廿日死四十四歳同寺ニ葬ル

長興　寛政森川今右衛門氏栄二子　森川虎之助

嫡子○寛政五丑年八月四日家督○

同年六月廿一日[illegible]

寛政十一未年十二月廿六日死二十二歳同

寺ニ葬ル

長民

実森川金右衛門氏令次男

森川百吉

寛政十一未年六月二日末期養子家督

高五百石

源姓

森川

[illegible]

森川金右衛門氏俊二代森川金右衛門氏信

次男

氏時

森川三右衛門

寛永三[illegible]

元和九亥年御近習ニ被召出○寛永七午年

御書院番○寛永十酉年二月七日加増被下

五百石ニ成○同十五戌年病死○法名恵光院

致仕○寛文四辰年五月十八日死五十
八歳同寺ニ葬

氏芳　森川三左衛門

承應元辰年家督（小姓組）○延宝二寅年九月
廿日死同寺ニ葬ル

氏重　森川吉左衛門（実森川六左衛門二子）　三左衛門

延宝二寅年十二月十日氏芳之家督（小姓組）○元
禄十四巳年四月四日死年五十一保名寺ニ葬

氏從　森川友太郎

元禄十四巳年七月九日家督○享保
八卯年二月廿二日死年五十二同寺ニ葬ル

氏勝　森川三左衛門　万太郎

享保八卯年五月廿二日家督（小姓組）○享保九
辰年十一月九日小性組○元文四未年

八月七日死　二十二歳　同寺ニ而葬

氏方

実ハ森川□□病死□二男
森川十九郎

元文己未年十二月九日十六才ニ而婚礼○
同又甲申年三月十日ニ而書院番○寛保
二壬戌年三月廿八日病死○安永己未年
閏十二月十二日殺仕○○死八十八才五月廿二日
死七十三歳同寺ニ而葬

氏殺

実ハ山下半平女陸二男
森川令右衛門　二男永

明和九辰年十二月六日婚姻十七才○安永己
未年同十一月十二日家督○安永八亥年
二月廿五日西丸御小性組○安永七戌年十二月
十四日病死○天明元丑年閏五月西
丸御書院番○同年九月廿五日死二十四
歳同寺ニ而葬る

実森川小左衛門氏興六男
森川紀十郎
氏村
天明元丑年十二月四日御書院番○同
二年寅八月廿七日死十七歳同寺ニ葬

実朝比奈弥太郎泰有之二男
森川三郎兵衛 今次
氏林
天明二寅年十二月六日書院番ニ而跡式○
同[illegible]
高五百石

源姓
高千二百石
家紋 丸の内[illegible]
森川
依之本多郎定縄十五代森川金右衛門氏
俊二代森川金右衛門氏信二男
森川小左衛門
之俊 三十六歳
寛永二丑年御小性組○同三寅年御上洛
供奉○同八未年御中奥御番入○同十一
戌年 大猷院殿御上洛供奉○同十二亥

年御書院番○寛文元子年日光
供奉○同二丑年同所○明暦三酉年
正月十八日江戸大火ニ付京大坂へ使○
万治元戌年御目付○同二亥年京大坂
御目付○同三子年日光御目付○寛
文二寅年駿府御目付○同三卯年日光
供奉○同七未年
大猷院殿十七回御法事日光勤番○同八
申年二月右之差支之段為有肥前国
嶋原へ流罪○延宝七未年赦免○
被仕○天和二戌年九月四日死七十二歳
牛込南蔵院ニ葬る

之勝　森川小左衛門　市之丞

御書院番○天和二戌年家督○元禄
十四巳年七月六日死五十四歳同所ニ
葬る

之延　森川市左衛門

元禄十四巳年家督○宝永元申年六月御書院番○享保十六亥年四月廿四日死同寺ニ葬ル　四十二歳

之為　実森川小左衛門之徳次男　森川四郎左衛門

享保十六亥年七月六日十七歳ニて家督○元文三午年十二月十四日致仕○明和二酉年三月廿日死五十一歳同寺ニ葬

之忠　実森川小左衛門氏徳次男　森川小左衛門

享保十八丑年七月六日[illegible]年若養子○元文三午年十二月十四日家督○寛保元酉年十月廿八日西丸御小性組○宝暦十一巳年八月二日御本丸勤○同十二午年十二月

十五日西丸勤○安永八亥年四月十六日
御本丸勤○天明元丑年五月廿六日西丸
勤○同三卯年二月十日老衰ニ付病氣全○同
五巳年八月十一日致仕○寛政七卯年二月
六日死八十四歳同寺ニ葬ル

忠福　森川小左馬　鉄之助　鉄太郎

天明五巳年八月十一日家督○天明七未
年十二月廿日御書院番○寛政元酉年
五月二十日病免○同四子年四月六日
御弓術上覧ニ而反物二○同八辰年十二月十六日
西丸御書院番

高六百石

源姓　高四百石

森川　家紋　丸ノ内酢漿草

高野又兵衛重信長男

重次

森川吉左衛門

天正二年戌年森川金右衛門氏俊之男○寛永十酉年大猷院殿○駿河大納言殿附○家綱さまヘ大番○寛文六午年十一月八日死年九十三歳牛込光照寺ニ葬

重宗　森川五兵衛

寛永十四丁丑年大御番ニ寛永［文］七丁未年
七月御家督ニ寛文十庚戌年六月十八日御
[illegible]奉行ニ延宝三卯年十月
二十日死享年十八宗同寺ニ葬

重武　森川五兵衛　半兵衛　七太夫

寛文三卯年十二月十九日大御番ニ近実

三卯年十二月十二日御家督ニ貞享元子
年八月十八日新御番ニ同四卯年七月
道奉行ニ元禄六酉年十一月十一日病
免ニ同十五午年十二月廿一日大御番ニ
正徳元卯年七月十一日死六十八大塚泉
佛寺ニ葬ル

速達　森川円蔵　伝次郎　数馬

元禄十六未年二月十五日初見ニ宝永

六丑年四月六日大御番入○正徳元卯年
十月四日小姓組○享保二十卯年十月
五日大御番組頭○元文元辰年六月
十九日死五十二歳同寺ニ葬る

清員　実ハ[illegible]源八郎常方次男
森川勘六郎

享保十四酉年十二月廿二日[illegible]養子
○元文元辰年九月二日小姓組○同年十
二月廿三日大御番頭○宝暦二申年
四月四日新番頭○同七丑年四月
十八日病気ニ付○同十辰年十二月廿九日
致仕○安永二巳年三月廿三日死
六十歳同寺ニ葬る

清房　実ハ森川[illegible]次男
森川七之輔

宝暦六子年十二月廿七日養子○
同十辰年十二月廿九日小姓組○同十一
巳年五月廿一日大御番頭○安永二巳年

八月十日死四十歳同寺ニ葬ル

清純
実吉川権六郎信賢次男
吉川之養子
安永二巳年十一月五日家督ノ間三
年午年二月廿八日大御番ノ天明七
未年四月廿五日死二十五歳同寺
ニ葬ル

清富
実安部八十郎信任次男
吉川八十次郎
天明七未年七月五日家督ノ間八
申年六月十二日大御番

高四百石

源姓

○森川 元山崎 高七百石

家紋 丸ノ内ニ酸漿
角ニ四ツ目結

先祖詳ならす

山崎ヲ改森川ト称
森川六左衛門

長次

天正十一申年森川金右衛門氏俊与力

○寛永六巳年八月八日三百石ニ而新規

○同十酉年大御番 ○同年九月十六日

死 葬地不知

長義　森川六左衛門　六之助

寛永十四年初見人○家綱○寛永十三子年大御番○万治三子年七月廿九日大御番組頭○同年十二月廿六日加扶持二百俵○寛文六午年八月廿五日大坂御手加秩五百石○延宝五巳年五月廿八日死大坂岩林勤ル内ニ死去

長安　森川六左衛門　六之助

明暦三酉年初見人○寛文三卯年十二月廿一日小性組○寛文五巳年月日不知三百俵○延宝五巳年家督遺跡二百石弟ニ分ケ長崎入ル組○元禄十三辰年八月十五日死年五十保存ス

長定　森川六郎之條　市郎兵衛　六左衛門

元禄六酉年十二月九日御書院番○同十三同…

十二月九日家督○享保六丑年五月十
九日死同寺ニ葬る

長矩　卜二
四月日不知而見
吉川六左衛門　九平郎
享保六丑年七月廿七日家督○同十二
未年四月十一日御書院番○同十九寅年
二月廿六日死同寺ニ葬

長久
吉川六左衛門　実甫　三五郎同道
小普請
享保十九寅年五月二日家督○寛保三
亥年八月十九日西丸御小性組○延享三
延享二丑年十月廿七日進物番
丑年九月朔日御本丸勤ニ○宝暦十一巳年
四月十日西丸小十人頭○同年八月二日御本
同年十二月十八日布衣○宝暦十二年十一月切西丸御部屋
丸勤○明和四亥年十一月十八日死五十二歳
同寺ニ葬る

長祇（タダ）　森川嘉次郎

明和四亥年十二月廿七日家督 ○同五（宝暦十辰年十二月十九日初見）
子年七月四日死 二十四歳 同寺ニ葬

長恕（コシ）　森川平三郎　太子　六兵衛
実天野山城守康幸三子
明和五子年十月五日養子 ○家督 ○同七（安永四年十一月十六日御書）
寅年八月十六日西丸御書院番 ○天明三卯

年五月廿五日病免 ○同年十一月十日
死 二十三歳 同寺ニ葬

長保　森川吉蔵　初通重
実天野山城守康幸四男
天明四辰年十月廿七日養子 ○同年十二月
廿八日家督（天明五年十二月十五日初見） ○天明六午年十一月廿九日御
小性組 ○同八年十一月廿一日進物番
高七百石

源姓　高弐百俵

森川　家紋　丸ノ内酸漿　角ノ内四ツ目結

森川金右衛門氏俊弟新左衛門七郎三代森川六左衛門長蔵二男

長恒　森新五満

延宝五巳年弐百石相続（小普請○大番○病免）○掛方小納戸○享保三戌年四月廿二日死　年四十二　保宗院

〃安号

長保　森川吉之丞　辰次郎
享保二酉年家督ニテ元文元丙辰年
十二月廿二日大御番ニテ寛保元酉年
八月廿九日死同寺ニテ葬ル

長達　森川新之丞　万之助
寛保元酉年十二月二日家督ニテ宝暦
十辰年十二月廿六日大御番ニテ安永二巳年
十月廿三日死同寺ニテ葬ル

長房　森川信吉　実ハ[illegible]次男
安永二巳年十二月廿七日家督ニテ安永七
戌年九月廿九日西丸小性組ニテ同年
十月二日死同寺ニテ葬ル

安長　森川巳三郎
実ハ森川小左衛門又忠男

安永七戊戌年十二月廿七日九ツ時過書付

高二百俵

源姓 高三百俵

森川 家紋 酸草 蔓柏 三枚柏

森川九左衛門好定七男孫市好高嫡男

光廣 森川新之丞 孫市

寛文二寅年四月廿日御小性組御番二十俵二人扶持 ○延宝五丁巳年十二月廿九日新番ニ之

御切米二十俵二人扶持加扶持 ○同六戊午年二月廿六日

小石川御殿江御賄〇同年三十九江御賄
組頭〇同年二月廿日同所御広敷役〇
元禄二巳年十二月朔日同所御賄組頭加扶
百五拾俵〇同七戌年十二月十一日死法
名浅草誓願寺ニ葬ス

好生　森川新之丞

元禄四未年十二月二日小十人組〇同七
戌年閏五月四日二丸御賄〇同年七月
十一日家督〇宝永元年十二月廿日加扶
百俵〇宝永二酉年八月廿二日一統小普請
〇享保六丑年九月廿九日死同寺ニ葬ル

好元　好武　森川新之丞　主る

享保六丑年十一月家督〇同十九寅年
五月十一日小十人組〇宝暦二申年八
月十一日死同年同寺ニ葬ル

好啓　吉川久右衛門　定猶　定昌

宝暦二申年十二月廿七日小十人組○
同六子年十二月四日家督○同九卯年
閏七月十二日病免○安永七戌年六月十
七日評定所書物御用出役○同八亥年
八月石川日向守殿ゟ御褒美銀十枚
九月十八日死去年一於同所葬

好案　吉川八蔵三郎
実ハ中村友右衛門利重二男

安永八亥年七月四日御番入○同年
十二月八日家督○天明元丑年七月廿二日
病免小十人組○同六午年閏十月廿日御
勘定御勤○寛政四子年四月廿日刀術
上覧ニ付拝領銀二○同八辰年二月廿二日吹
上大的上覧ニ付拝領二○同七卯年十月十九日
吹上弓術上覧○同年十二月廿日本丸
川御勤ニ付為御褒美被下○同八辰年

四月二日家督〇寛政八辰年九月
廿二日死四十四歳於浅草誓願寺ニ葬

好房　森川参八郎
実ハ松泉院房之助二男利次男
寛政八辰年十二月二日家督 十七歳
高三百俵

高百五拾俵
源姓　家紋　酢漿草　蔓柏　二重輪　丸ニ三枚柏
〇森川
森川新左衛門光廣二男

勝宗　森川角左衛門
元禄十五午年九月廿五日被召出御勘定〇享保
十八丑年病免〇寛保元酉年七月 百五十俵
二日死於浅草誓願寺ニ葬

好寛　森川彦太郎

享保十八丑年二月二日御勘定 ○ 寛保元酉年十月二日大番 ○ 宝暦五亥年五月十八日御賄方[illegible] ○ 同

寅年十一月十七日死 同寺ニ葬

好量　森川陽太郎

宝暦八寅年十二月廿七日大番 ○ 同十一

巳年五月六日死 同寺ニ葬

光好　森川彦次郎　実好寛二男 [illegible]

宝暦十一巳年九月三日兄好量養子家督 ○ 同十三未年十一月十二日死 同寺ニ葬

勝理　森川新之助　市右衛門 初名

庚午年 ○ 実川合[illegible]次男

宝暦十二午年十一月廿七日[illegible]

安永五丙申年十二月二日西丸小十人組ニ而同（○天明元年十二月廿三日西丸小十人組ニ而同年八月廿四日病死）
六丁酉年十月病死ニ而天明五乙巳年正
月廿八日西丸小十人組ニ而同年十月七日病
死ニ而同七未年八月十二日小普請ニ而天明
八申年八月十八日病死ニ而寛政元年
十二月廿六日西丸御小納戸ニ而同十三年十月廿八日
甲府勤番

高百五十俵

源姓　高四百六拾七俵

森川　家紋　丸ニ内飯蝶　角四ツ目結

森川金右衛門氏俊二男

正次

森川金右衛門　勤番組

寛永十二乙亥年初而小性組ニ而寛永九
依仕年ニ而同七寅年被召出御家
進者ニ而寛永十八巳年二月三日死去
来年之恵之者ニ而在

次弘　黒川四郎左衛門　伊織

寛文二寅年十一月廿一日桜田御殿ニ而小
性組ニ而百俵○同年十二月御使役○同
十一亥年三月ニ而小性組頭役○延宝七
未年三月八日ニ而御先手役○一位様御目通上意○天和三亥年
六月甲府ニ而定火消加役百俵○元禄六酉
年病免○同十二卯年七月十二日御役仕
○同十三辰年十二月十日死七十九歳同

寺ハ天徳寺ニ而

友重　黒川中務

延宝八申年八月廿日桜田御殿ニ而初
見ル○元禄七戌年六月廿一日ニ而小性○
同十五午年二月十五日小十人組ニ入足高
百俵○同十二卯年七月十二日家督○
元禄十巳年十二月廿二日病免○宝永
元申年十二月ニ而御九ニ而御仕○同巳年
十二月廿八日病免○享保六丑年十二月

廿一日被仰付、○同十二申年十二月廿四日死
六十歳、同所ニ葬ル
文昭院殿御年中御式御取次之留

実父 森川助十郎

友房 ○実森川四郎兵衛次男

元禄九子年四月九日桜田御殿ニ而召出、
○同十一寅年十一月十六日小十人組、○宝永
元申年十二月西丸御供番、○享保二
酉年十二月廿四日西丸御広敷添番

○享保四亥年十一月廿日免し、其子
○同六丑年六月廿五日家督、小普請
○同十二未年十二月十二日死、四十七歳、同
寺ニ葬ル

実福田源左衛門正勝次男
森川長五郎

友方

享保十二未年五月二日急養子
家督、○同十八巳年正月廿九日西丸小十人
宝暦十二年八月廿二日御番御免△
○大的上覧ニ而被下、○宝暦十二未年六月
△同十三年十二月廿五日西丸勤

十八日新番頭○天明二寅年二月十六日
老免寄合○寛政元酉年四月廿二日
致仕○同十一未年二月十二日死七十八歳
同所に葬ル

友旋（トシ）

実石尾清左衛門輝信二子

赤井清二郎

宝暦十辰年三月廿八日嫡孫長子○堂上
騎射上覧人百組○明和五子年正月廿二日

二十七歳ニて死同所ニ葬ス

氏佳（モト）

実友旋之男

赤井伊織

明和五子年正月廿三日嫡孫承祖○寛
政元酉年四月廿二日家督○同四子年
九月廿九日初見○同六寅年八月八日
小納戸○同年八月晦日御腰物方○同九
巳年二月廿七日西丸勤○同年十月十三日

給術　上野九左衛門
高四百六十七俵

源姓
森川　高壱万石　三百人
本氏堀場　実父九月卒
角四月誌
堀場三四郎氏兼二男

氏重　森川助左衛門
東照宮御代尾州比良郷罷在長久手之陣
の節親類共集り比良城ニ罷在面々
各命を蒙り右古城兄金右衛門と一所
罷在天正十二辰年兄金右衛門氏俊の親

盛六人の者与力たるへきむね命を蒙る
采地二百石を賜ふ○万治の比常陸国
乃内にて預けらる○元和元卯年十二月
務る死て年六十某武州深川村宝積
寺に葬る

氏成　作平　後加々爪甚十郎組　養子化て堀鐡元

信之　森川戈兵衛

台徳院殿御代大坂両御陣供奉○元和元
卯年大坂役○寛永十酉年宗家二
代目森川金右衛門氏信都ひきうけ大
御番之命をうけ是か禄二百石を預けらる○
同十六卯年九月十七日死て同寺に葬る

改俊　森川金兵衛

東照宮命によりて尾張大納言殿へ附させ
らる森川本領尾州猿投村を預け使番

と称し後病身ニ付暇を乞ひ甲州
上條村へ引込長男赤川孫左衛門長次
と兄助左衛門長俊の養子と成

某　赤川加兵衛

駿河大納言忠長卿へ附られ大納言落
去の後寛永十二亥年正月廿八日死ス
武州宝積寺ニ葬ル

信正　赤川助左衛門

大猷院殿御代初見○寛永十五寅年
大御番○同十六卯年父死去ニ付加役二
百石を収公せられ本地二百石と偏
ひ家督○万治二子年病免○貞享
二丑年四月廿二日死ス六十六歳　牛込
寺町保善寺ニ葬ル

信春　森川助之進

万治二亥年大御番〇寛文八申年五月
元方御納戸〇天和元年四月元方
常憲院殿御代御納戸組頭〇貞享二丑年
七月十六日家督〇廩米三百俵の内百俵
御加増三百石高ニ被成〇元禄元辰年
十月二日御役御免小普請〇同三午年
正月より年始五節句登　城〇正徳三
巳年四月廿五日死同年より養子

信定　森川長之助

正徳三巳年同五月廿七日家督〇同五
未年五月廿九日死同年より小養子

信政

実安藤式部信富男

森川孫太郎

正徳五未年七月廿六日聟養子家督○享保十巳年十二月元方御納戸○同十二未年三月廿五日西丸新御番○寛保二戌年九月廿九日死去年五十一葬同寺小石

信馮

森川左京

孫五郎

隠居休斎

寛保二戌年十二月二日家督○寛延元辰年七月十日元方御納戸○同二巳年八月廿二日新御番○宝暦二申年十二月十日辞番入小普請○明和四亥年十二月十六日致仕○安永四未年八月廿九日死去年七十葬同寺ニ葬ル

信友

森川虎之助

助左衛門

高三百石

明和四亥年家督○同九辰年正月廿八日
大納言○寛政二戌年二月十一日大納言
組頭○同三亥年二條在番中
禁裏
仙洞御移徙相済御祝儀として
刑部卿殿より被進物の御使を勤む
○同七卯年三月六日小金原御鹿狩供
奉

源姓
森川
森川與四郎氏兼二男

高四百石
家紋 抱花破菱
角四目結

氏重
森川助左衛門

東照宮長久手御陣の時尾州比良と申所在
所ニ付親類共集り比良城ニ籠在合
せ籠り古城ニ見合左衛門氏俊と共ニ籠在
文禄二巳年尾州より関東へ下り関ヶ原

御陣乃時より
台徳院殿供奉真田より今右衛門氏俊ニ而有り
死去○元和元卯年十二月朔日死去廿
六歳武州足立郡深作村寶積寺ニ
葬ル

長俊
森川助右衛門
慶長十四酉年

台徳院殿ニ拝謁○大坂両御陣供奉○元
和二辰年
駿河大納言殿附○同年十二月采地四
百石を賜ふ○大納言殿薨去ニよりて
所領ニ預ケ置し預ケらる○寛永十三子年
台徳ニ還同十四丑年常陸國麻生郡
の内ニ而百石を賜ふ○同年十二月ホニて旅中
○同十九午年十二月九日死去年九歳
同寺より葬る

長次　森川孫太郎

実ハ森川今之丞政俊か子

実父今之丞政俊

東照宮の命によりて尾張大納言殿に附属せられ

其後川知領尾州破森村を得て使者

かくれなりしの病により付そひまゐり甲

州上の森村に引こもり是より悲傾なりしか

伯父の德によりて此書をとゝめ寛永十九

午年十二月十日長俊か家を継ぐ○正保

元申年六月十六日御小性組○延宝八申

年正月廿八日死して六十四歳年也保吉

寺に葬る

長政

森川助三郎　称仲

明暦二戌年七月十六日初見え○寛文三

卯年十一月十九日御書院番○延宝四辰

年十二月八日死ス二十一歳同寺ニ葬ル

長英　嫡孫彦祖　森川孫十郎

延宝四辰年十二月十二日父長政跡屋住ニテ
元来ノ三百俵ヲ賜ハリ小普請トナル○同
八巳年嫡孫彦祖○同年九月七日御番入元
来ノ三百俵兄上ル○元禄十丑年十二月十八日
御書院番○宝永四亥年十二月二日病免

○貞享元子年六月十八日死ス七十三歳
同寺ニ葬ル

継長　森川孫右衛門　[illegible]

貞享元子年九月三日家督○同二丑年
正月廿一日一橋御屋補勤番○同年九月十
三日
大御所附御小性組○寛延二巳年三月六日病免

明和五子年十二月十六日小普請組入〇天明
四辰年十二月二日死ス　享年八十歳同寺ニ
葬ル

惟長

実喜多川右九郎氏芳二男

喜多川助九郎　猶之丞

宝暦十辰年十二月四日生ル〇安永二巳
年九月八日養子願

長玲

実長谷川監物正尭二男

喜多川左門

安永三午年二月晦日養子〇同四未年
同十二月十八日初見〇天明四辰年十二月
廿六日家督〇同七未年二月十六日死ス
享年二十二歳同寺ニ葬ル

克長

實長次二男
喜多川幸次郎　高四百石（孫十郎家）

安永六酉年十二月九日○天明七未年
五月九日家督○同八申年十二月廿六日西丸
御書院番

源姓

森川　高五百石

本氏堀場

家紋　角四目結　丸ノ内ニ雁金

堀場与四郎氏兼二男

重利

喜多川久右衛門

尾州比良郷ニ住居天正廿辰年兄喜多
川今右衛門氏俊彰ニよりて石出某氏
後ニ力たる尾てさへ合ハ命ニ蒙リ氏尭
国足立郡深作村ニ二百石の御判物を得て

○致仕○慶長七寅年二月廿六日死ス法名
涼化村宗積寺ニ葬ル

重久　森川久右衛門　実ハ森川助左衛門氏宗次男

嫡子○家督○寛永十酉年宗家二代目
森川金右衛門氏信家ヒなり大猷院を
命せらる○同十六卯年十二月加役二百石（日記寛永十二年十二月ニ作ル）
其後年々不作ノ付五百石を廩米并五
百俵ヲ賜ル○慶安二丑年六月四日死ス
八十二歳同寺ニ葬ル

重成　森川久四郎　二男

家督○
厳有院殿御代大御番ニ成リ荒番組○寛文
九酉年五月八日死ス牛込寺町保善寺
ニ葬ル

重之　森川久太郎

家督○貞享元子年十二月十八日大御番
○元禄五申年五月廿四日死ス　二十某
同寺ニ葬ス

盛房　森川主計　市丸

元禄五申年七月廿二日家督○同十一寅年
五百俵収之上知行ニ御付替ニ遣　下野國ニ而
五百石給之○元文元辰年十月廿四日致仕
○同五申年十月二十四日死ス　五十五歳　同寺
ニ葬ス

綱利　森川久太郎　亀十郎

元文元辰年十月廿四日家督○同二巳年

五月九日大御番○明和八卯年二月廿七日
二條ニ於テ死ス五十八歳京都千本通
光清寺ニ葬ル

定利　森川太四郎　主計　傳之助

明和八卯年五月二日家督○天明六午年
御役不相勤毛病借金百両○同八申年
六月十二日大御番○寛政元酉年六月
九日死ス五十五歳牛込寺町保善寺ニ
葬ル

義利　森川定次郎　実ハ木村久左衛門恒俊二男

天明四辰年十二月廿五日養子○寛政
元酉年八月四日家督○同年八月十九日
初見○同三亥年五月十二日大御番○
同四子年七月廿六日大坂在番の時於府

彌ゝ小節ゝ死ス二十七歳駿府八幡村
補龍院ニ葬ル

利雄

森川岩三郎　実ハ木村久右衛門恒佑二男

高五百石

寛政三亥年十月四日書院番ニ番入○同
十戌年五月十四日砲術上達ニ付反物

源姓

森川　家教　九門殿家来　角四目結

高識ゟ信

森川久右衛門重久二男

重定

森川孫兵衛　半右衛門

寛永己卯年十月十八日新規召出され
二之丸附○同五辰年三月廿七日御
小性組ニ命せられ廩米二百二拾俵を
御加○延宝七未年六月十九日死ス年五

寺町保善寺に葬る

重清　実ハ飯田三左衛門某男　森川孫四郎

延宝七未年七月十二日御目見御厩小頭と
表御殿番百俵被仰付○元禄六酉年
七月廿一日相止御番○同年大御番○
宝永四亥年三月廿七日死して同寺に
葬る

重種　実ハ神尾七郎右衛門長孝二男　森川庄之助

宝永四亥年五月廿六日家督○享保
元申年五月十五日死して同寺に葬る

重富　実ハ能勢彦三郎為易二男　森川安七郎

享保元申年十月十五日家督○同七寅

年十一月廿一日死ス同寺ニ葬ル

定員

実ハ筑荒五郎右某七男
森川孫七郎

享保七寅年十二月廿五日家督○同十三
辰年二月二日大御番○宝暦三酉年
六月十日大御番組頭○安永八亥年三
月十四日京都在番の節
孝恭院殿御法号御免下ニ付為副御用

同年五月七日褒賞金二枚時服二○
天明元丑年十二月十二日老免褒賞金二枚
○同二寅年五月六日死ス七十一歳同寺
ニ葬ル

定員

森川孫兵衛　房五郎

宝暦八寅年九月十五日初見○明和三
戌年騎射上覧の付御馬ヲ走及拠ニ賜

安永七戌年七月十九日御書院番○寛
政元子年同二月廿六日死去五十七歳
同年小普請

定刑

荒川孫九郎
高二百俵
天明四辰年九月朔日初見○寛政四
子年五月四日家督○

源姓　高四百石

○森川　本氏堀場　家紋

森川金右衛門氏兼四男

重定

堀場小之助
天正十二申年小牧長久手御陣の時
東照宮命によりて森川金右衛門氏俊親
戚六人の者石集尾州比良郷古城にお
る武時拝領して○文禄三午年八月吉

死して年三十歳武州足立郡深作村寶
積寺に葬る

重氏　荒川八左衛門

文禄乙未年
東照宮へ奉仕原某と御附に塩場を
改め荒川と称して○慶長五子年関ヶ
原御陣の刻より
台徳院殿へ仕へ大坂両御陣供奉○致仕○
寛永十一戌年八月十五日死して六十歳
日寺に葬る

重政　荒川小左衛門　実は荒川八左衛門重氏が次男

家督四百石○寛永九申年九月召る
初めて御持筒代令百人預けて○同年大番
○正保二酉年七月廿五日大坂在番にて

死去二十九歳市ヶ谷長龍寺ニ葬ル

重時

荒川小膳 八左衛門

正保三戌年家督○大御番○天和二戌年四月御簞笥奉行○貞享五辰年五月十二日病免○元禄十七申年二月十五日死去七十七歳同寺ニ葬ル

氏次

実荒川助左衛門信正二男

荒川小右衛門

元禄十七申年三月遺跡家督○宝永二酉年二月二日大御番○同三戌年九月二條在番ニ於テ死去年廿一歳京都北野恵向院ニ葬ル

勝雄

実ハ川井次郎兵衛某二男

森川外記 岩五郎 七郎右衛門

小左衛門 主水 隠居浄寿

宝永二戌年五月廿九日養父家督

○享保四亥年八月二日大御番○同九

辰年十二月十五日新御番○同十五戌年

二月十九日病免○明和七寅年八月

八日死七十六歳 市谷長龍寺に

葬る

（宝暦十三 二月十九日致仕）

岐勝

森川七郎右衛門 岩次郎

二百四十石

宝暦八寅年十二月十九日家督○同九

卯年四月五日大御番○明和三戌年十二月

十一日新御番○同六丑年二月十七日[illegible]

[illegible]○安永五申年日光御社参

供奉○天明元丑年七月九日新御番組頭

○寛政元酉年七月四日御役御免

（小普請組頭）

実ハ森川玄庵以貞ガ六男
勝命（ヨシ） 森川外記
安永三午年十二月十八日部屋住〇同
午年八月廿二日初見

源姓
森川
高弐百五拾俵
家紋 [illegible]
〇
馬場弥三郎氏恵四男
重定
馬場小伝次
天正十二申年小牧長久手御陣の時令下
ありて森川金右衛門氏俊親族六人
の者召集尾州比良御古城をまもらしむ
[illegible]

東照宮へ拝領之

重氏　森川八左衛門
東照宮へ奉仕廩米を給ハリ小姓組ニ在
後ニ森川と称ス○慶長五子年関ヶ
原御陣の供奉
台徳院殿へ奉仕大坂両御陣供奉

重政　森川小左衛門
大猷院殿へ奉仕大御番

重房　重政二男
森川源左衛門
寛文二寅年十月十八日二男より新規
小十人組へ召出され廩米百俵十人扶持

○宝暦三年五月廿八日○老之
○加秩百俵実録二百石格俵と成る○享
保己亥年十二月晦日死ス七十七歳市ケ
谷長龍寺ニ葬ル

末房　森川小兵衛
実ハ山本七郎某四男
宝永三戌年八月十六日養子○同六丑年
大御番○享保己亥年十二月晦日家督○
同九辰年十月廿八日新御番○寛保二戌年
正月八日死ス六十歳同寺ニ葬ル

由房　森川八左衛門
寛保二戌年正月二十日家督○同年
八月八日大御番○延享元子年五月
十二日病免○同(天明)三卯年七月七日死ス
六十歳同寺ニ葬ル

三
佳景

実市川八左衛門倅寛之二男
森川甚蔵

天明三卯年十月御目見養子家督○寛
政二戌年六月廿日死亡十九歳同寺ニ
葬る

寛勝

実森川七郎左衛門暁衛二男
森川虎之助

高二百五十俵

寛政二戌年九月御目見養子家督

源姓　高六千石
家紋　丸ノ内ニ蝶
　　　角四ツ目結

○栗門

佐々木太郎定綱ヨリ出尾張国住人瑞場
與四郎家成以後栗門出羽守重信二男

重右

栗門七之助　下総守

寛永五辰年初而御目見○同九申年
御小性組○御書院番○同十一戌年御加増

六百石○明暦二申年十二月廿日御書院
番組頭ニ加役三百俵合八百石同年十二月
布衣○万治二亥年八月廿一日御小性組番
頭同年十二月廿七日諸大夫加役千俵合
千八百石○寛文二寅年十二月廿二日新
御番頭加役二百石合弐千石○同三
卯年十一月日光御供○同辰二月三日
三番役御免同日七月十六日御将○同巳辰
年六月十九日加役三千石合二千五百石○

同六午年十二月三日登城退出之
病気ニ付處同八日右乃御尋有之依之
在職上意之趣蒙之相病同日死去年三十歳
下総國生實之清巌院ニ葬
寛有從係四画彼祿壽之図 一幅
尊圓親王御筆 一冊
同 松殿大殿 一冊
同 古今和歌集 上巻為相卿筆 下巻為家卿筆
古今以下同

実ハ森川伊賀守重政か三男
森川孫十郎 摂津守 下野守
重高
始重房 又重明
養子○万治三子年十二月廿六日初御目見
○寛文四辰年叙爵摂津守○同六午年十二月
養父重之遺言により千石ヲ同苗五千石被
千石森川兼之助ニ分ケ之本千石相続
せしむ○延宝二寅年御使番加役同三
卯年十月御番○同七未年八月十二日
御小性組番頭○同冬十二月水戸宰相殿
ニ附属下総国之内五百石加増○天和元酉年
七月廿六日御書院番頭○同二戌年七月廿
一日御加増千石合二千石○貞享元子年
三月廿八日大番頭○同年八月廿八日於殿中
して稲葉石見守正休堀田筑前守正俊を害
のときひしとよりて抱すへ遠りて正休
を討留○元禄元辰年正月二日二千石加増

之宮同年八月朔日
禁裡江御太刀御馬被進御使。同二巳年
正月廿八日御暇。同年五月二日御側
御奉公。同年七月六日御暇上ル年
大猷院殿御仏殿御修復惣奉行。同年十一
月廿六日西丸へも被召出同日御用取次
勝手御用也。同年十二月十八日西之丸江も
病気ニ付御役ニ而御免、石見守病気故
以之出仕ハ侍従様ニ甲斐守為御奥同人

大坂蔵番衆頭ニ被仰付。同六癸酉年十月
十二日死四十五歳葬所同寺葬

実柴田出羽守定信ノ男
柴田織部　下総守

俊央
幼名　又重郷(サト)
養子。元禄六癸酉年十二月廿日部屋住ニ而
常憲院殿柳沢出羽守亭へ御成之時御目見出羽
御成座御本丸御成書院御前ニ而奉之

年若ニ而逝去之由夢殿ニ而御側衆ニ付
御処置若年ニ付御逝去ニ付被成御免
逍敷○同年十二月十一日未刻卒○同七戌
年閏五月廿二日中奥ニ而小性○同九子年
八月六日御小性同年十二月九日叙爵○
同十二卯年閏九月廿日於御座敷ニ〆元服
御ゆるし有之御前ニ而御手ニ而三百二十石被下○宝
永六丑年二月廿一日中奥御小性○同年
六月廿七日

常憲院殿御側衆大久保出雲守○正徳二辰年
九月朔日御小姓組番頭○同巳年七月
十一日御書院番頭○享保七寅年二月九日
新番頭相役〆御役御免小普請入御役
○同八卯年三月八日大目付○同十一午年
三月小普請組支配御広敷御用人格御役被仰付
上意有之而御菓子被下之○同年九日小普請
ニて御役替之儀被仰付○同十三申年十二
月十六日御役被仰付同三月廿日被仰付

○同十四酉年七月六日二條在番之處同〇〇
勤ム
禁裏御所火之番より賜御使〇同十七子年
二月四日病死〇同年十二月九日死去ニ付
同所ニ葬

備(トモ)
国(ヨリ)
森川兵三郎　職務　與之助
下総守
享保十七子年六月二日家督〇同二十
卯年三月九日初入〇元文四未年

六月廿日鑓持成在番〇寛保元酉年（同年八月廿七日御暇ニ而在所江　十二月ニ而相済）
十一月二日中奥御小性〇同二戌年
叙爵ニ付相信今ニ而〇延享元子年
十月十六日叙爵〇同二丑年十二月十七日
東照宮百三十回御忌ニ付於東叡山ニおゐて
八講御執行ニ付御用相勤同廿二日廣敷用
勤二〇寛延二巳年七月廿二日御小性組番
頭〇宝暦三酉年十一月朔日尾張中納言殿
因へ〇御使同十五日御暇令拾段〇同〇

六月十五日故障○同年九月朔日御先代
番頭○同巳戌年九月廿一日隠居被仰付
○同八寅年六月十五日大御番頭○同年十度
年七月朔日御側御用人○同廿日主殿
之御屋敷拝領今ヲ可取持○同年九月
廿三日将軍宣下御祝儀ノ節御加役
相勤ル時服○同年十一月廿九日御番
之通○同十一巳年八月二日御逝去御役
一御役料御小袖二御帷子二御書付下

一夏帷御紋付下一面緒ノ○同月晦日
蒙之御刀拝領○同年十二月十五日大
御目見○明和元申年八〔九〕月晦日死去十
八歳同寺ニ葬

俊清

東門 辰三郎 織部 飛驒次郎 下総守

宝暦十三未年十二月廿五日御召之○明和
元申年十二月五日家督○同二酉年十二月
廿一日御小姓衆中奥御番○

同二戌年十一月廿日御元○同年十二月十
五日中奥御小性○同巳亥年十二月十六日
叙爵○安永四未年四月十五日西丸御小
性組番頭○同八亥年正月十六日御小性
頭○天明元丑年九月十五日尾張大
納言殿国元上使同年十月朔日御用
介様役同廿一日御用取次同十二月朔日御側
○同三卯年正月廿六日御小性頭取○同
五巳年九月十五日[illegible]○同七

未年三月九日西丸御側衆○同九巳十二
月廿九日御側御用人参勤○同八申年
二月十九日吹上御花壇之儀一巻請取
上候○寛政元酉年十二月十五日安永
財等殿諸書中務ニ[illegible]一[illegible]中財
[illegible]之[illegible]ニ[illegible]十六日
[illegible]之[illegible]中[illegible]
[illegible]出[illegible]中[illegible]
[illegible]達[illegible]○同二戌年二月

廿日死四十[illegible]ニ葬

後世（ヒサ）

実東川下総守信因次男

東川蔵羽　亀三郎

高六百石　東川下総守忠信上総[illegible]養子○天明八申年十二月廿六日御目見○寛政二戌年○五月四日家督○同年十二月十八日[illegible]一匹花[illegible]一統[illegible]上[illegible]○同三亥年六月廿六日[illegible]○同八卯年五月十六日大[illegible]

○同六寅年十二月十六日[illegible]出[illegible]○同十年午八十月十二日小普請[illegible]組[illegible]死

源姓　高千石

（印）桒山　家紋　丸之内鳩酸草　四目結

桒山出羽守貞俊次男　〻〻

貞勝

実桒山長十郎貞綾男
桒山主水貞度　左仲号　菊之助

養子次男〇延宝二寅年七月十八日
初入又高之内千石分知分合〇丁和

為

三寅年正月七日桐之間御番○同年
八月廿八日御小姓組○元禄三午年九月
朔日桐之間御番○同月十八日小普請
○同八申年十二月十八日御書院番○同六
酉年八月病免○正徳三巳年十二月
廿九日御書院番○享保八卯年八月廿五日
御小姓組与頭○同十巳年十二月廿七日小
普請御広敷番之頭御用○同十一午年
二月廿七日小普請御広敷番之頭御用○

同年八月廿八日西丸新御番頭○同
十四酉年同九月廿八日右近将監被為
同日叙爵○同十七子年七月十九死
七拾歳四ッ谷浄運寺葬

修組

東門守水　右京　実父　大屯　孝右衛門　忠水

享保十七子年十月二日家督○同年　寄合
十二月二日初見○元文五申年十二月十六
御使番○同[illegible]

引渡同○寛文七月十五日比跡令夜同子
八月十五日御目見家上之○延享二丑年
十月十八日病死害之○宝暦八寅年
九月十八日隠居○安永二巳年六月
十九日死六十七歳同寺葬

後要人

実又七郎隠居家督次男
采門 七十郎 令十郎 内匠 主水 唐

延享二丑年八月廿九日跡目之子○解
宝暦八寅年九月十八日家督○同九
同年十月廿八日初見

卯年二月七日御小性組○明和六丑年
九月廿一日病死○同七寅年七月廿二日
致仕○同年十一月十日死六十二歳同
寺葬

後尹

実山本左之助臣廉道次男
采門 誠之助 主水 主税 飛驒守
高五百石

明和六丑年七月十六日養子○同七寅
年七月廿二日家督○同八卯年正月

正月廿二日御小性組○同年六月二日
御持御番○安永五申年七月日光御宮
○天明七未年二月廿四日小十人頭
廿六日本役○寛政三亥年八月十四日
西丸御目付○同年十月廿六日御目付
○同年十二月十日来春
種姫君上ル御縁組御用一所取扱○同年
六月廿八日
長君御葬送御用○同年七月十二日

孝順院殿御霊屋御普請向新規御造
御位牌所御修復御用同月十七日右褒
美老物三○同六寅年二月廿二日諸大
下向之外御用取扱○同年六月廿二日御
海辺御備御用取扱○同年十月十二日御
勝手御取締掛○同日人足寄場掛
○同年十一月十六日増上寺
文昭院殿御廟所御修復出来栄見
分○同年閏十一月十六日日光御参

御具足召御修復御用西坂○同七卯
年二月十七日西丸御修復出来ニ付御褒美
之○同年六月九日御武器御飾出精ニ付
西坂○同寅九月二日日光御修復不残出来ニ付
同月廿六日帰府○同年十二月十七日猶又
下向ニ付御用相勤候ニ付時服二○同月
晦日御日光差遣○同日濱御用屋敷見廻
○同八辰年二月九日日光御門并屋
御修復出来同年四月八日御暇金被下

時服二羽織同年七月九日帰府○同月
十三日西丸御殿向并大奥向其外御修復
出来ニ付○同九巳年七月廿二日日光
御修復為取締罷越候ニ付御用金二百両○
同年閏七月廿日日光御修復不残出来ニ付
十月十二日帰府○同十午年十二月十二日
日光へ御暇○同年六月朔日御霊屋上
之○同月廿日日光出来ニ付○同月廿二日
右日光御用相勤候ニ付金千枚且右

御用之節貸付米御渡金二枚同月
廿七日日光御修復出来方宜貸付役
上意之旨松平伊豆守宅達○同年九月
十八日致仕

源姓

◯一桒門　高六百石
家紋　丸内酢漿
角四ツ目結

桒門出羽守貞俊三男

重久　桒門八郎右衛門

寛永十三子年十一月十八日初見○同十五寅年
新規御書院番同十七年正月十二日御蔵米三百俵○寛文
三卯年九月三日御書院番組頭○

同年十二月廿六日加増三百俵合五百俵 ○同十戌年十二月廿九日病免 壽斎 ○正寶巳辰年六月廿日死五十七歳 法名 實

速俊院葬

素
八丁堀
宝永十年もり十三年卯七

重良　実後藤太郎兵衛長男

森川勘之丞

正寶二寅年九月養子 ○同巳辰年七月十二日家督 ○同六巳年六月十日

御書院番 ○貞享巳卯年六月廿八日桐之間御番 ○元禄二年十二月廿六日御書院番 ○同十一寅年廩米六百俵比方之内下さる ○正徳二辰年八月廿日病免 ○享保六丑年十一月廿六日死六十八歳 青山瑞徳寺葬

同年十二月廿五日

俊賢

森川数馬　權之助

宝永六丑年正月御小性組廩米三百俵
○享保六丑年十二月廿七日寄合○
同九辰年三月十七日病免○延享五
辰年六月十日死六十七歳同所葬

後嗣

某門 救るたゑ 伊勢守 甲斐守 令八郎

寛延元辰年八月四日寄合○同年
九月廿一日御小性組○宝暦元未年六月
十二日御小納戸同年十二月十八日布衣
○明和元申年七月朔日免御番奴○
同五子年十二月廿六日御手当御賞書以
相成○同六丑年十一月十一日御小納
戸頭取格同年十二月十八日叙爵伊勢守○安永
六酉年六月廿六日御小納戸頭取○同八
亥年二月廿四日蔵替○同年四月
十八日御本丸御小納戸頭取格免○
天明元丑年六月十八日

御養君様御出之節御附御小納戸ニ被仰付
○同六丑年六月六日
大納言様御奥足ニ初而御用 老衰ニ付○
同八午年九月八日御広敷御用人○寛政
四子年六月十六日西丸御普請○同月廿
一日八王子千人同心頭一両度○同年
八月九日死 六十八歳 同所葬

後親
実 柳生氏 永久保 二男
粟門 花通 継孫

明和六丑年十二月廿二日養子○同
年十二月廿二日初入○同八卯年十二月
十九日死 十六歳 同所葬

後輝
実 粟門同勝正俊 次男
粟門長門 寅之助 令之介 改ル
明和八卯年十二月廿六日養子○安永
元辰年十二月十三日初入○同五申年
十二月十九日御小性組 廩米二百俵

○天明七未年六月廿四日西丸小納戸同年十二月十八日布衣○寛政四子年十二月三日家督○同五丑年十二月十二日西丸小性○叙爵○同八辰年九月十四日死年廿一歳同寺葬

俊懌（ヨシ）　桑山鉄三郎

高六百石　武蔵相模之内

寛政元酉年四月六日跡目拝領○

同八辰年十二月二日家督

源姓　高六百五拾石
東門　小氏塚場　家綴　九月改號　酉四月継
依之本右衛門定綱十七代塚場与四郎氏
萬足利義輝公代織田弾正忠ニ仕奉
塚場之名家ヲ処氏萬拠領今名無氏後
東照大君家上ヘ立東門ニ改与四郎
氏兼之男

重次　森川出羽守

東照宮長久手御陣之節若尾取比良之
中西五十両之御判物頂戴仕候比良之
城ニて所生百石被召出右城之預ケ
氏俊一所ニ所生百石○文禄元辰年
正月江戸ニ而被下候又石出之し[illegible]
三百石被下○慶長六子年死七十一
嫡子武兵衛出羽守宝積寺葬

通久　森川清八　庄兵衛

天正八年辰年於遠州今之右衛門氏信拝
ゟ之氏俊与力ニ召出され同
十年御供○大坂夏御陣御供○同○正
月江戸ニ而被下候処同年二月朔日[illegible]
二百石被下候御判物今ニ所持○
寛永長五子年相続合五百石罷成
以○寛永九申年十二月十三日死七十

十二歳同所ニ葬

次吉　森川庄兵衛

寛永九申年十二月十三日父遺跡相続ニ而
惣領ゟ五百石之内弐百五千石弟ニ分ケ、
分知被仰付セられ弐百五千石家督○
同十酉年森川金右衛門代ニ付
初而大御番加増二百石合四百五十石
○同十六卯年大坂加番被仰付○慶元

○慶安三寅年六月廿八日死、年六十二歳
同所ニ葬

昌次　森川清十郎

慶安三寅年十二月十一日家督○万治
二亥年大御番○延宝八申年十二月
廿九日大御番組頭○天和元酉年十
二月廿六日加増二百俵○同二戌年正月
廿二日加増二百石合八百五十石如此、

此内二百石次男昌氏へ分知○元禄二
巳年七月廿八日死年六十五　普門寺葬

昌勝　東門八左衛門

元禄二巳年七月廿日家督○同十一寅
年七月十日蔵米二百俵地方ニ直し
下さる○宝永七寅年七月廿六日病
気被仕○享保十七子年六月廿八日
死六十四　同寺ニ葬

昌氏　東門清四郎　小十郎

二百俵分知ニ而寄合ニ分知家督被

昌武　東門金十郎

宝永七寅年七月廿六日家督○
享保七寅年十二月十六日大御番
○同十九寅年九月十二日新御番　○病免
○元文五申年十一月廿四日死六十五歳

同寺ニ葬

昌忠　東門弓之助

元文五申年十二月廿三日家督○同六酉年十二月廿六日大御番○宝暦四戌年四月八日病免○同年九月十二日死　二十九歳　同寺ニ葬

昌敬　東門民三郎　庄之助　松翁

宝暦四戌年十二月二日家督○明和元申年正月十九日大御番○寛政八辰年七月廿三日病免○同九巳年四月十二日致仕

昌房　東門武翁　高六百[illegible]石

寛政九巳年四月十二日家督

一高弐百二十俵

源姓

同

栗門 本氏塩塙 家紋 丸ノ内龍胆
角四ツ目結

依之本太郎定綱十三代塩塙与四郎
宗氏之男胤之備守綱嫡子栗門
庄之備通綱之男

次改 ―― 栗門庄兵衛 本之備

寛永九申年二月十二日又ミ門

貳百五十俵分知○同十六卯年大口
番○慶安四卯年四月
清揚院殿江附○同年十二月米ゟ八人扶
加増百俵○寛文元丑年甲府江
ら江加増百五十俵合五百俵○病死之
○同十二子年六月四日死年五十三宝泉
寺ニ葬

吉次

実ハ同苗長右衛門某次男

森川次郎太夫

万治二亥年八月
清揚院殿江初而御目見○同年九月御小
姓組○同三子年廩米百五十俵
○寛文元丑年加増七十俵合二百
二十俵○同十二子年六月四日父次以改
跡目五百俵之内吉次ニ二百俵
実子次男某之助江二百俵分知合四百
られ御組新番頭之同之廩米ハ返上
○延宝四辰年八月廿七日死同寺ニ葬

某　森門甚兵衛
寛文十二子年家督○死十五歳同
寺葬本郷寺

方次　森門治右衛門
延宝四辰年家督○同八申年
十一月廿五日御小性組○病死○元禄
五申年九月廿二日死同寺葬

次勝　森門五郎右衛門
実森門次郎右衛門二男
元禄五申年十二月十八日家督○
享保十巳年十二月廿二日致仕○
寛保元酉年八月六日死同寺葬

次信　森門源左衛門
享保十巳年十二月廿二日家督

○元文三午年九月十三日小十人○
宝暦三酉年三月十九日病死○
同七丑年十二月十二日跡仕○明和七寅年
六月廿七日死七十七歳同所葬

房次　栗門定次郎
宝暦七丑年十二月十二日大番組○
安永八亥年八月廿日跡仕

次秀　栗門源太郎
安永八亥年八月廿日大番組○天明
二寅年七月朔日死二十五歳同所葬

次尚　実栗門定次郎房次二男
栗門末太郎　高二百二十俵
天明二寅年七月廿日大番組○
寛政五丑年十二月十八日死二十一歳

同寺ニ葬

某　源九郎

源姓　高二百俵

辰

粟川　家紋　丸ニ月[illegible]　角四ツ目結

粟川庄左衛門之次二男

逸治　粟川半九郎

横田乃殿新組ニ小性組廩米二百俵○（元禄二年十一月廿日）

元禄九子年六月ニ小性組ヲ○病免○

享保十乙巳年六月二日死[illegible]宝泉寺ニ葬

房治（ワク）

実一場左右馬次男　栗門万之郎

享保二酉年四月十八日長子 ○ 同七寅年十一月廿二日家督 ○ 同十八丑年十二月廿二日死 三十八歳 同所葬

正勝

実一場茂左衛門次男　栗門久米之助

享保十八年四月廿二日長子家督小普請 ○ 延享四年十二月廿八日西丸小十人 ○ 寛延三午年十一月廿八日病免 ○ 宝暦三年十月廿六日死去 五十三歳 同所

勝通（ワラ）

実栗門源左衛門次男　栗門久次郎

宝暦三酉年十二月廿四日養子家督 ○ 同四戌年六月十八日西丸小十人 ○ 同七丑年七月十九日病免 ○ 寛政六寅年四月廿四日致仕

実中川忠右衛門長利次男

定賢（ヨシ）　森川文四郎

寛政五丑年三月廿四日家督 ○同六
寅年四月廿四日番入 ○同十午年六月
十二日死 二十九歳 同寺ニ葬

永賢　森川藤次郎　高二百俵

寛政十午年七月四日家督

藤原姓

森川　高三百俵　家紋 九曜星

三河国住人森川日向守宗家嫡子
森川助左衛門末男

照道　森川助左衛門

東照宮三河御在国中永禄十二年
召出され初而御知行 死去并葬地不知

照憲　寿門御筆

東照宮御年忌

天樹院殿大猷院様江奉納仕候ニ付寛永十

二子年十二月廿日死　浅草海禅寺

葬

照方　寿門御筆

天樹院殿御附○

清揚院殿御附ニ而右同様ニ付寛文

改○寛文五卯年十二月八日死同寺葬

照重　寿門広筆　御九郎

寛文己卯年　桜田御殿ニ而御召抱○

甲府宰相殿ゟ元禄二年正月廿日召出

綱豊○同年

文昭院殿御代御色紙御絵縦冊一枚拝領

○同九子年十二月廿日死同寺葬

実父松本安左衛門季政三男
森川與太左衛門

改記

元禄九子年七月十二日家督〇同十一年正月廿七日小姓組〇同十五午年二月五日御小納戸〇同十六未年正月廿六日

文昭院殿御代御用色紙取扱〇宝永元申年十二月五日西丸御小納戸〇同二酉年六月十八日加増弐百俵〇同四亥年十二月十八日布衣〇同六丑年五月朔日より相勤 宣下御役被成御時服弐〇同年九月朔〇正徳二辰年十月廿四日大喪の時服拝領〇同三巳年五月十日

有章院殿御代御小納戸〇同四午年十二月廿二日御役御免寄合〇享保元申年五月十六日病〇同五子年十一月廿四日死 行年七十七歳 同寺ニ葬

政方　森川源五郎

享保壬子年十二月廿九日初而御目見〇同丸

辰年十月九日西丸御書院番〇同十一年巳

三月小普請〇〇[illegible]〇〇〇子〇同十

三申年九月病死〇同十八癸年九月

廿日死年廿一葬同寺ニ葬

政[illegible]　実は[illegible]英成之二男
森川[illegible]　[illegible]

享保十八癸丑年十二月二日御書院番〇元文

三午年三月廿日西丸御書院番〇延享三

寅年二月廿日死年廿七葬同寺ニ葬

政光　森川猶之助

延享三寅年十月二日御目見〇宝暦

丙子年二月廿六日死年廿六葬同

寺ニ葬

実方
森川世黄 助九郎
実森川与兵衛政照二男

政之

宝暦五亥年十二月六日 家督○同年十月廿七日 西丸書院番○安永五申年正月日光 諸役 依 拝○天明元丑年 月十日 病免○同六午年二月十九日 死 年五十一 葬同寺

森川佐平郎
高 同儀

政寧

天明六午年六月四日 家督○同七未年八月十一日 西丸書院番○寛政十一未年正月廿八日 在宅 奉 門 廿六日より二月四日 [illegible]

藤原姓
表川

高三目結
家紋 九曜星
九ノ内四ツ目結

表川日向守定家末代表川惣太夫

照方三男

信宗

表川次郎左衛門

寛文九酉年十二月廿四日石谷さまへ

○延宝二寅年十二月十二日御納戸ニ成

天和三亥年九月八日死 御当丈浄念寺葬

信貞

実大屋文右衛門二男 森川次郎兵衛

貞享元子年七月廿八日 桜田御殿
御書院番 同三寅年十二月廿日死
同寺葬

信之

実沢田四郎左衛門二男 森川権六郎

貞享三寅年十二月廿二日桜田
御殿ニ而奉公始○同四卯年
二月九日御小姓組○元禄五申年
六月廿九日御納戸番○同十一寅年
十月廿日御膳番○宝永元申年
十二月廿五日御用達其上御膳奉行
○正徳二辰年十月廿四日大喪の時

蔭鋪役仕替〇同二巳年四月廿
六日承鋪役仕廻〇同四未年十二月
十八日加役御免〇享保元申年四月
大番の後小普請〇同十巳年十月十
四日死六十七歳同寺葬

信英

戸入部支分
実部兵衛忠和二男
東條八左七郎

宝永四亥年二月廿六日部屋住子
〇同六丑年四月十八日初見人〇享保

十巳年十二月廿二日家督〇同十五戌
年五月廿六日大番〇宝暦四戌年
五月廿六日大番組頭〇同十辰年
二月十二日死六拾二歳同寺葬

信賢

東條権六郎　求馬

享保十八丑年十二月十五日初見人〇同十
辰年十一月十日部屋住〇同十二巳年
十二月十六日大番〇安永二午年

三月廿六日死　法名不詳　同所ニ葬

信彦　喜門七郎　高之
高三百俵
明和六丑年九月部屋住より切米○安永
三午年十二月六日家督○同年十
二月十四日大番○同寛八年十二月
七日大番組頭○天明七未年二月
在番中
禁裏附被仰付候

寛政○同八申年六月廿八日於大津の與六
時ニ家来成瀬の禁を犯し御咎の
於番中ニ差控被仰付候
政ニ三未年十月朔日番頭ニ而御
番組頭被仰付候
ヨリ小普請入○同子年
正月十二日卒

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan